

第9回「小中高生と最先端研究者とのふれ合いの集い in 信州」の報告

大隅基礎科学創成財団 理事 飯田秀利

大隅基礎科学創成財団は、2025年3月23日（日）に第9回目の「小中高生と最先端研究者とのふれ合いの集い（以下、ふれ合いの集い）」を、教育県として長年知られてきた長野県の長野市にあるJAアクティールホールをメイン会場として開催しました。

共催の信州大学の特徴を活かして、サテライト会場を信州大学上田キャンパスと同松本キャンパス、更には公立諏訪東京理科大学（茅野市）に設け、オンラインで双方向に結びました、3つの「科学講演」と「大隅良典先生への質問コーナー」はメイン会場からサテライト会場に配信し、質問はサテライト会場からも受け付けるという方針で実施しました。

まず、**手嶋勝弥先生**（信州大学卓越教授）が「水をキレイにする化学～世界の水問題と信大クリスタル～」と題して講演しました。次に、**齋藤直人先生**（信州大学卓越教授）が「歩行アシストサイボーグの開発」と題して講演しました。



手嶋勝弥先生

齋藤直人先生

さらに3人目として**大隅先生**が「生命に必須のリサイクルの仕組み」と題してノーベル生理学・医学賞の研究内容を講演しました。講演の終盤で、基礎研究の大切さ、長期的視点の大切さを強調し、科学を文化として楽しむ社会が来ることを期待すると述べ、講演を締めくくりました。



講演中の大隅先生

休憩をはさんだ後、**大隅先生への質問コーナー**に入り、小中高生が科学について活発に質問し、大隅先生が丁寧に答えました。その中には、成果第一主義の中で研究をするのは大変ではないかという質問に対し、大隅先生は、成果がすぐに出る研究よりも大切なのは、自然がどうなっているかと疑問を持つことが大切であり、それを解き明かそうとする研究が大切だと答えました。また、基礎科学の面白さは何かと問われて、大隅先生は生命の成り立ちに興味を持ち、それを追究できる楽しさであると答えました。

その後参加者は、大学、高専、高校、企業などが出展した**科学体験ブース**（合計16のブース）に移動して、実験・観察などの科学体験を楽しみました。

当日の参加者数は小中高生と保護者を合わせて220名でした。会場ごとの内訳は、長野市会場150名、上田市会場26名、松本市会場16名、および茅野市会場28名でした。

全プログラムが終了した後、アンケート用紙に回答をいただき

ました。アンケートにはノーベル賞受賞者の話を聞くことができ良かった、信州大学の先生の研究レベルが高いことに気づきうれしく思ったなどのコメントが書かれていました。

最後に、長野市会場では参加の多くの小中高生が大隅財団の事業に賛同し、大隅財団に寄付をくださいました。このご寄付は大隅財団への期待と受け止め、今後より一層基礎科学の振興のために尽力しようと気を引き締めました。

今回信州での「ふれ合いの集い」が好評のうちに開催できたのは、以下の教育機関、団体、会社等のご協力があったからです。篤くお礼を申し上げます。

共催：国立大学法人信州大学

後援：長野県、長野市、長野県教育委員会、上田市教育委員会、松本市教育委員会、茅野市教育委員会、信濃教育会、信州理科教育研究会、公立諏訪東京理科大学、信濃毎日新聞社

科学体験ブース出展：

長野市会場：信州大学教育学部理科教育コース化学研究室、信州大学信大クリスタルラボ、国立高専機構長野高専、信州理科教育研究会、長野県屋代高等学校課題研究物理班、同校課題研究化学班、ガラス産業連合会、株式会社ユニフローズE-HPLC ことり、株式会社ミマキエンジニアリング、株式会社オリジナルマインド

上田市会場：信州大学繊維学部、長野県上田高等学校化学班



熱心な小中高生が訪れた科学体験ブース

松本市会場：信州大学理学部生物学コース、長野県県ヶ丘高等学校地学部

茅野市会場：公立諏訪東京理科大学、長野県諏訪青陵高等学校化学部

ノベルティーグッズ提供：公益財団法人中谷財団

協賛幹事：株式会社新興出版社啓林館、公益財団法人理数教育研究所

以上